

(別紙2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成21年12月24日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3970101121
法人名	医療法人 武田会
事業所名	グループホーム エルダー介良
所在地	〒781-5106 高知県高知市介良乙3734-5
自己評価作成日	平成21年8月25日
評価結果市町村受理日	平成21年1月6日

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成21年9月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://kaigo.pippikochi.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3970101121&SCD=320
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

丘の上の高台に建ち、四季折々の景色を眺望しながらおいしい食事などの提供ができるグループホーム「エルダー介良」。3ユニットという大所帯の利点を生かし、ユニット毎の連携によりそれぞれのユニット利用者の方々が他のユニット利用者との交流が日々図れ、なじみの関係づくりの輪の広がりが大きく持てるグループホームです。その上で、各ユニットの特色も生かした介護を行い、家庭的な雰囲気の中でゆったりとした流れに感じられるという特色が自慢のグループホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所内外ともに整頓され清潔感が漂い、椅子やソファなどの配置やクッション、和める照明や室温の調整など、利用者がゆっくり安心して過ごせるよう配慮されている。食事は3ユニット分をまとめて調理し、各階のユニットでは利用者と職員と一緒に盛り付けして食卓を囲んでいる。また、週に1回は各ユニットで独自におかずを一品添えるなど、食事を楽しむ工夫をしている。事業所では、地域との触れ合いを大切に、掲示板で行事案内や協力依頼を行うほか、高校生や舞踊グループのボランティアを受け入れたり、地域の宅老所の利用者や幼稚園児・子ども達との交流や、近隣のショッピングモールに出かけるなど、地域資源を有効に活用している。今後も運営推進会議を通じて防災訓練に住民参加を呼びかけるなど、地域と一体となった運営に期待が持てる。

自己評価および外部評価結果

ユニット名：1F

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に沿いながら毎年の目標に向かって実践している。日々のサービスの提供場面の振り返りをカンファレンス、ミーティングの場で行うようにしている。	独自の理念を掲げ、毎月のミーティング時などに、「信頼されるグループホーム」づくりについて必ず確認し、実践につなげている。また、玄関先の掲示板にも理念を表示し、地域の人々の理解を得るなど、取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の幼稚園の季節行事への参加、中央高校のボランティア活動の受け入れ、宅老所への定期的参加により、地域の方との積極的な交流を図っている。	日常的に散歩に出かけており、近隣の人たちと挨拶を交わしたり、子ども達への声かけや、時には畑の収穫物を頂くなど、交流が出来ている。また、事業所の掲示板を活用して行事案内や協力依頼を行うなど、積極的に地域交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所を見学された時や、電話で部屋の空き情報の問い合わせがあった際に、認知症の家族への不安、対応などについても話をし支援をするように取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年から、各ユニットの家族の代表の方が参加しており、話し合いやすい雰囲気づくりを心がけ、サービスの実際の報告だけでなく、提案や質問など、活発な意見をいただき、サービス向上に取り組んでいる。	会議では事業所の報告や、委員からサービスについての質問、要望があるなど、双方向的な会議となっている。委員から災害時等の際の炊き出し、避難訓練、AEDの設備などについて意見があり、運営にも反映されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者の状況に合わせて市と連絡を取り、情報交換を行っている。東部地区グループホーム連絡会に参加した際にも、サービス等について相談に乗って貰ったりしている。	運営推進会議の他にも、市の担当窓口や東部支援センターによる東部連絡協議会で、事業所の実情を報告するとともにケアについての相談、助言を貰うなど連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年、身体拘束に関する研修に参加し、事業所内研修を全職員に実施している。利用者が出て行こうとする時は、一緒に付き添うなど安全面に注意し自由な暮らしを支援している。	身体拘束の研修会に参加し、その都度、報告会(研修会)を開催し、全職員に周知徹底を図っている。日中は玄関を施錠せず、利用者が外出した時は、さりげなく付き添っている。家族との話し合いも出来ており、協力が得られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会をもち事業所内研修も行っている。また、折に触れ普段何気ない言葉の中で「言葉の虐待」がないように、その都度話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年、高齢者の権利擁護の勉強会に参加し、事業所で伝達講習を行い、各ユニット間でも話し合う機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、時間を取り丁寧に説明をしている。利用料金やリスク、重度化、ケアに対する方針や退居等詳しく説明し、同意を頂いている。契約の変更があった場合はその都度、説明、同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情箱を設置し、手紙や面会時などに伝えている。面会時には不安や苦情など言い易い雰囲気作りに心掛けている。	苦情箱などの設置はしているが、これまで特に意見は出ていない。事業所では、家族会の発足について家族と積極的に話し合っているが足踏み状態である。	家族は、意見や要望等を言い出し難いということを考慮し、催し物などの後で、家族同士で話し合いをする機会等を設定し、事業所に対する忌憚のない意見、要望が出てくる場面づくりなどが期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングや3カ月毎の個別面談で職員の意見を聞いている。また、入居者に関する気づきや提案を毎日の申し送りなどで言って貰い、全職員で検討、共有し、対応するようにしている。	管理者は、全職員と3カ月毎に個別面談を行い、運営面も含め、意見や提案の聞き取りをしている。また、組織内でも意見を出しやすい環境があり、提案等を反映させる仕組みがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は時々現場を訪れ勤務状況などの把握に努めている。管理者は職員に個々に応じた目標を立ててもらい3カ月毎に1回面接を行っている。その際には、多方面に関しても相談に乗るように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修情報を収集し、年2回の研修を全職員に実施している。それ以外にも職員の力量に合わせて研修を受講し、報告書をもとに事業所内で伝達してもらい、全職員で共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東部地域グループホーム連絡会に参加し勉強会や相互訪問などの活動に取り組んでいる。得た成果は、サービスの向上に反映させるよう努めている。		

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用の相談を受け、見学や面談時に、本人に会って、本人の思いや状態について理解し、受け止めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	心身状態や困っていること、不安なことなど、ゆっくり時間をとり相談に乗っている。その上で次の段階についての相談に繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に情報収集し、適切なサービスを見極め必要に応じて他のサービスに繋げるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや不安、喜びなどを知るように努め、日々の生活の中で分かちあい、共に支えあう関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話などで、その時々の状態を伝えて家族の思いや現状などに寄り添いながら、本人の生活の場を広げて共に支えあう関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お話しのお会への定期的な参加、墓参り、手紙の交換など、継続な交流が出来るよう支援している。	地元の宅老所の利用者や、市外から知人が事業所を訪問してくれるなど、家族の協力も得て、馴染みの人達に会い、楽しみの時間を過ごすなど、関係性を保てる支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を職員同士で共有し、日々変化する心身状態など注意し見守っている。個別に話しを聞いたり、相談に乗るなどしながら、利用者同士が支えあって過ごせるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設等に移られる際は、情報提供を行い、お見舞いに行くなど、その後の経過を伺っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関りの中での言動や表情などからも把握し、意向や思いについて検討し、職員同士で共有するようにしている。	日頃の関わりの中で、その人の言動、表情などから、思いや意向を把握している。利用者によっては、近くのパワーセンターへ出かけ、喫茶やカラオケなどを楽しんでいる。また、中国語に堪能な利用者が中国語の先生と会話を楽しむなど、利用者一人ひとりの希望や意向に沿った支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居後の生活の中で出てくる言葉やご家族、面会の方などの話の中で少しずつ不明な点や具体的な情報を得て照らし合せている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員で利用者個々の生活リズムを理解しながら、言動や表情などから全体的に理解するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の希望や思いを伺い、利用者の日頃の言動からの気づきをもとに、毎月のモニタリングや定期的なカンファレンスを行い、介護計画を作成している。	本人、家族の希望や気づきを取り入れて、話し合っケアプランに反映している。また、毎月モニタリングを行い、計画は、3カ月の見直しを基本として、6カ月あるいは短期での状況に応じた柔軟な介護計画の作成に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事や排泄、入浴、介護計画の実践状況など、利用者の日々の暮らし方、身体的状況や変化について、個々に記録し、勤務前に確認や申し送りを徹底し、職員全員で情報を共有しながら、実践や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応するように買い物や外出、宅老所など柔軟な支援やサービスに取り込んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	高校生ボランティアの来訪や幼稚園児との交流、地区の子ども老人の交流会、日本舞踊の発表会、デイサービスセンターの利用など、あらゆる機会を捉えて、利用者を取り巻く地域資源と連携して暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の納得を得られたかかりつけ医に受診して頂いている。受診先医には連絡ノートで情報の提供を行い、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者や家族の希望に応じて、利用前のかかりつけ医への受診が継続出来ている。家族同行の際は、連絡帳を家族に渡し、受診時の医師からのコメントを記録し返却され、結果についても事業所内で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>利用者に少しでも変化があれば直ちに職場内の看護師に相談している。状況に応じて協力医療機関の医師の指示を受け、必要に応じて、かかりつけ医への受診が受けられるようにしている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、経過についても病院関係者、家族と回復状況について情報交換を行っている。</p>		
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>グループホームだけで対応するのではなく、医師も含めた人的資源を最大限に利用し利用者や家族の要望を聞くようにしている。ターミナルケアについての勉強会に参加し伝達講習なども行っている。</p>	<p>本人や家族からの希望があれば、事業所で柔軟に対応していくことを検討している。</p>	<p>重度化や看取りに関するマニュアルを作成し、事業所で対応することなど、家族等に十分説明して、利用者、家族が納得し、安心して終末期を迎えられる体制を築かれることを期待したい。</p>
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>全ての職員が年1回の救急救命法を受講するようにしている。非常時にどう対応するか職員間で話し合いを持ち、事故発生時にスムーズに行動出来るように備えている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行い、毎月各階別に避難訓練を行っている。地域町内会長が運営推進会議の構成員であり、協力を得られるように相談している。	事業所内では、毎月、各階毎に避難訓練を実施しているが、これまで、地域住民の参加は得られていない。現在、運営推進会議で災害時の話が出ており、地域の協力が得られるよう話し合いを行っている。	災害時等に、地域住民の協力を得られる体制が整えられつつあるので、運営推進会議を通して地域へ協力を呼びかけ、訓練に参加してもらおうなど、地域ぐるみの取り組みを期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の漏洩防止については、施設内研修会を行い周知徹底を図っている。写真などの外部公表について家族の承諾をもらい、職員間で共有している。また、日頃の言葉掛けで利用者の誇りやプライバシーを損ねることがないよう取り組んでいる。	内部研修のテーマに取り上げ、職員に周知、徹底をしている。また、日々の介護の中で気づいたことは、その都度振り返り、注意し合っている。トイレ誘導など声かけに気配りしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その日に何をしたいか、一人ひとりが思いや希望を言えるよう、どちらか選んで貰ったり、希望を聞きながら、自己決定ができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝は、本人の希望時間に起床し、朝食を摂って頂いている。散歩や掃除、入浴など1日の流れはあっても一人ひとりの気持ちを優先してしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせて、化粧やおしゃれを楽しんで貰えるよう支援している。自己決定をしにくい人には一緒に見て貰いながら決めている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月1回は食事作りを行い、毎週1回は小鉢作りを行っている。また、畑で取れた物等がある時は一緒に作っている。配膳や片付けは毎回、利用者と共にやっている。	食材は3階の調理室で一括調理し、各階のユニットでは利用者が盛り付けや下膳などを行い、職員も一緒に楽しく食卓を囲んでいる。また、週1回は、各ユニットで小鉢1品を調理するなど、食事を楽しむ工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立を作成している。食事量、水分量の摂取状況を記録し、少なめの利用者には、声かけのタイミングや好みの飲み物など工夫して勧めたり、食べやすくキザミにするなど工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、居室でする利用者に声かけし、フロアでする利用者には準備しておく、一人ひとりに応じた声かけを行っている。義歯は毎日義歯洗浄剤を使用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの状態に合わせた支援が出来るように、常に職員間で話し合いを持ち介護計画にも活かしている	現時点では排泄は自立している利用者が多い。中にはトイレへの声かけ、誘導の必要な利用者やパットを使用している利用者もいるが、それぞれに応じた支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の水分摂取を勧めたり、体操や散歩など体を動かすよう努めている。食事には繊維の多い物を献立の中に取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりに声かけし、本人の希望に沿った入浴を支援している。重なる時は相談して順番を決めたり譲り合っている。	朝風呂、夕食後の入浴など、利用者の希望に沿った柔軟な対応が出来ている。入浴を拒否する利用者には、職員が代わって声かけしたり、話題を変えてタイミングに工夫しながら入浴の支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は他の利用者との交流や運動が出来るように支援している。また、その日の体調や状態に合わせて休憩が取れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関と連絡ノートで受診時の様子や薬の変更など情報交換している。薬の変更時は職員に申し送り、熱計表やフロア日誌に記載し確認出来るようにしている。処方薬変更時には、服薬後の状態変化にも留意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その日をどのように暮らしたいか、利用者の力や好みをもとに声かけし、自分で選んで貰っている。一人でしたい事、皆で出来ることなど、家族や職員間で共有しながら、利用者の意向に沿えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>日常的にも利用者の希望に沿えるように外出支援をしている。普段行けない所については、利用者の希望を把握し、計画を立てたり家族の方と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>日常的な近辺での散歩をはじめ、家族の面会時に外食をするなど、家族の協力も得ながら個別の外出希望にも柔軟に対応している。また、毎月1回外食に出かけたり、四季折々の花や催しを楽しみに出掛けるなど、年間を通して多くの外出機会を計画し、積極的に外出支援を行っている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>小額のお金を手元に持っている利用者もいる。家族からお金を預かっている利用者も外出時には、自分で支払うことが出来るよう支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話は、希望があればいつでも出来るよう支援している。家族や大切な人に年賀状や暑中見舞いなど出せるよう支援している。</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者にとって良い室温調整や光、音、季節に応じた花や飾りつけなどで、気持ちよく過ごせるよう支援している。</p>	<p>フロアの椅子、テーブルなどの家具は、利用者が使用しやすい配置となっており、利用者が職員と1対1で過ごせるスペースもある。壁には、折り紙で利用者が作った紅葉を飾るなど、季節感にも配慮し、全体的に清潔感とゆったりとした雰囲気が漂う共用空間となっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少し離れた場所に長椅子や一人掛け椅子を設置し、一人になったり気の合った者同士で過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時は、使い慣れた物を持参するよう勧めている。入居後は、一人ひとりの状態に合わせて好みの物や希望する物など、利用者や家族と相談しながら居心地良く過ごせるよう支援している。	各居室の入り口には、入居者のメモリーボックスが備えられ、家族の許可も得て、記念写真や個人の作品を貼り、暖簾の絵柄も楽しく落ち着きがある。自室には使い慣れた鏡台や調度品、幾冊ものアルバムを置き、家族写真を飾るなど、利用者が思い思いに居心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状況に合わせて、手摺りの増設、入り口の電気の調節など行い、便器の高さの調節を行っている。状況に合わせてその都度検討し、利用者にとって良い環境づくりを支援している。		

V アウトカム項目		ユニット名：	1 F
項 目		該当するものに○印	取り組みの成果
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		該当するものに○印	取り組みの成果
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果

ユニット名：2F

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に沿いながら毎年の目標に向かって実践している。日々のサービスの提供場面の振り返りをカンファレンス、ミーティングの場で行うようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の幼稚園の季節行事への参加、中央高校のボランティア活動の受け入れ、宅老所への定期的参加により、地域の方との積極的な交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所を見学された時や、電話で部屋の空き情報の問い合わせがあった際に、認知症の家族への不安、対応などについても話をし支援をするように取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年から、各ユニットの家族の代表の方が参加しており、話し合いやすい雰囲気づくりを心がけ、サービスの実際の報告だけでなく、提案や質問など、活発な意見をいただき、サービス向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者の状況に合わせて市と連絡を取り、情報交換を行っている。東部地区グループホーム連絡会に参加した際にも、サービス等について相談にのって貰ったりしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年、身体拘束に関する研修に参加し、事業所内研修を全職員に実施している。利用者が出て行こうとする時は、一緒に付き添うなど安全面に注意し自由な暮らしを支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会をもち事業所内研修も行っている。また、折に触れ普段何気ない言葉の中で「言葉の虐待」がないように、その都度話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年、高齢者の権利擁護の勉強会に参加し、事業所で伝達講習を行い、各ユニット間でも話し合う機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、時間を取り丁寧に説明をしている。利用料金やリスク、重度化、ケアに対する方針や退居等詳しく説明し、同意を頂いている。契約の変更があった場合はその都度、説明、同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情箱を設置し、手紙や面会時などに伝えている。面会時には不安や苦情など言い易い雰囲気作りに心掛けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングや3カ月毎の個別面談で職員の意見を聞いている。また、入居者に関する気づきや提案を毎日の申し送りなどで言って貰い、全職員で検討、共有し、対応するようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は時々現場を訪れ勤務状況などの把握に努めている。管理者は職員に個々に応じた目標を立ててもらい3カ月毎に1回面接を行っている。その際には、多方面に関しても相談に乗るように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修情報を収集し、年2回の研修を全職員に実施している。それ以外にも職員の力量に合わせて研修を受講し、報告書をもとに事業所内で伝達してもらい、全職員で共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>東部地域グループホーム連絡会に参加し勉強会や相互訪問などの活動に取り組んでいる。得た成果は、サービスの向上に反映させるよう努めている。</p>		

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>見学、面接の時点で生活状況を把握するように努め、御本人のかかえている不安や、困っていることを理解するよう努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>見学、面接の時点で今までのサービスの利用状況や、これまでの経緯についてゆっくりと話を聞かせて頂き、ご家族の困っていること、不安、要望などを把握し、関係づくりに努めるようにしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談時に御本人と家族が今、何のサービスを必要としているのかを見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>支援する側、支援される側という意識を持たず、共に生活をするもの同士として、協働しながら、穏やかな生活ができるように場面づくりや声かけをしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の状態をこまめに報告、相談している。行事の度に本人の写真入りの絵葉書を作ったり、絵手紙に参加した時は作品を家族に出してもらうように支援し、関係が途切れないようにしている。また、面会時は本人と家族の潤滑油になるよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事の度に写真入りの葉書を作り、家族にだしたり、以前の勤務先の方に会いに行ったりと、関係が途切れないよう支援をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、利用者同士の関係を把握しており、利用者同士でトラブルにならないよう、さりげない援助をして、関わり合いを持ち、支えあえるような支援をするよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、面会に行ったりしており、必要に応じて相談や支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から今までの暮らしや本人の思いについて聞かせて頂き、普段の会話から暮らしの希望や意向を把握するように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や、今まで関わりのあった方から、これまでの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境について情報をいただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを職員が把握しており、小さな変化も見逃さないようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中から、本人や家族の思いや意見を聞き、介護計画に反映させるようにしている。アセスメント、モニタリング、カンファレンスは意見交換をしながら職員全員で行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事や排泄、入浴、介護計画の実践状況など、利用者の日々の暮らし方、身体的状況や変化について、個々に記録し、勤務前に確認や申し送りを徹底し、職員全員で情報を共有しながら、実践や介護計画に活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応するように買い物や外出、宅老所など柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>高校生ボランティアの来訪や幼稚園児との交流、地区の子どもと老人の交流会、日本舞踊の発表会、デイサービスセンターの利用など、あらゆる機会を捉えて、利用者を取り巻く地域資源と連携して暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>		
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>家族の納得を得られたかかりつけ医に受診して頂いている。受診先医には連絡ノートで情報の提供を行い、適切な医療を受けられるように支援している。</p>		
31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>利用者に少しでも変化があれば直ちに職場内の看護師に相談している。状況に応じて協力医療機関の医師の指示を受け、必要に応じて、かかりつけ医への受診が受けられるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、経過についても病院関係者、家族と回復状況について情報交換を行っている。</p>		
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>グループホームだけで対応するのではなく、医師も含めた人的資源を最大限に利用し利用者や家族の要望を聞くようにしている。ターミナルケアについての勉強会に参加し伝達講習なども行っている。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>全ての職員が年1回の救急救命法を受講するようにしている。非常時にどう対応するか職員間で話し合いを持ち、事故発生時にスムーズに行動出来るように備えている。</p>		
35	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の消防訓練を行い、毎月各階別に避難訓練を行っている。地域町内会長が運営推進会議の構成員であり、協力を得られるように相談している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の漏洩防止については、施設内研修会を行い周知徹底を図っている。写真などの外部公表について家族の承諾をもらい、職員間で共有している。また、日頃の言葉掛けで利用者の誇りやプライバシーを損ねることがないように取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は普段の生活の中から、本人の思いや希望を汲み取り、本人が決定する場面を作るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、特に時間を区切った過ごし方はしていない。その日の体調や本人の気持ちを尊重し、ゆったりした時間を過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの身だしなみができるように、家族に依頼し援助している。美容院は行きつけの店に行けるように家族の支援を依頼している。整容の乱れ、汚れに対してはプライドを大切に、さりげなくカバーしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が同じものを一緒に食べている。同じテーブルを囲んで食事を楽しめるよう援助している。また、盛り付け、片付けなど利用者と一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事量はチェックしており、一日を通してどれくらいの量を摂取しているか全職員が把握している。水分は一日1500ccを摂取できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの大切さを全職員が理解し、毎食後の歯磨きの支援をしている。セッティング介助、声掛け、磨きなおし、義歯の清掃、夜間は義歯を洗浄剤に漬けるなどの援助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全室にトイレがあり、自分の好きな時にいつでもトイレに行ける。一人ひとりの排泄のパターンをつかみ、さりげなくトイレ誘導を行い、排泄の自立にむけた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操、水分補給の徹底を行い、便秘対策に取り組んでいる。便秘のひどい方には乳酸菌を摂取していただいたり、医師に相談したりさまざまな対策をとっている。コンチネンスケアの重要性を理解しており、折りに触れ職員間で話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員は利用者の入浴状況を把握しており、入浴が必要と思われる時には、職員がさりげなく入浴の声かけをしている。また、毎日の入浴や朝風呂など、好きなタイミングで入浴ができるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを職員が把握しており、その時々体調や行事などに合わせて、休息をとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関と連絡ノートで受診時の様子や薬の変更など情報交換している。薬の変更時は職員に申し送り、熱計表やフロア日誌に記載し確認出来るようにしている。処方薬変更時には、服薬後の状態変化にも留意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	らっきょうを漬けたり、梅ジュースを作ったり、浅漬けを漬けたり、餅を丸めたり、経験のない職員が利用者に教えてもらい経験と知恵を発揮して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お寿司を食べに行ったり、喫茶店でおやつを食べたり、積極的に外出している。花見、動物園、美術館、植物園などその季節にあわせた外出を楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>買物に行ってお金を払うような場面では、本人にお金を手渡し、払う場面を作っている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>絵手紙の作品や、行事の本人の写真入りの絵葉書、年賀状などを家族に送る支援をしている。家族から手紙が来た時は一緒に喜んでいる。また電話でやりとりできるように援助している。</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>七夕、クリスマス、お正月などの季節の行事の際には季節感のある飾りつけをしている。テレビや音楽の音量に注意し、快適に過ごせるように工夫をしている。また、光に対してまぶしさを訴える方がおられるのでカーテンの開け閉めはこまめに行っている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>居間にソファがあり、皆そこでくつろいでいる。自室の入り口にのれんをかけ、入り口を開けてもプライバシーは保たれ、一人になることができ、なおかつ他の人の気配を感じることができるようになっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みの品々やアルバムなどを持ってきて頂き、居心地の良い居室づくりの工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状態に合わせ、トイレの手すりや、風呂場の手すりを増設し、安全かつ自立した生活が送れるように工夫している。		

V アウトカム項目		ユニット名：	2 F
項 目		該当するものに○印	取り組みの成果
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		該当するものに○印	取り組みの成果
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果

ユニット名：3F

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に沿いながら毎年の目標に向かって実践している。日々のサービスの提供場面の振り返りをカンファレンス、ミーティングの場で行うようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の幼稚園の季節行事への参加、中央高校のボランティア活動の受け入れ、宅老所への定期的参加により、地域の方との積極的な交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所を見学された時や、電話で部屋の空き情報の問い合わせがあった際に、認知症の家族への不安、対応などについても話をし支援をするように取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年から、各ユニットの家族の代表の方が参加しており、話し合いやすい雰囲気づくりを心がけ、サービスの実際の報告だけでなく、提案や質問など、活発な意見をいただき、サービス向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者の状況に合わせて市と連絡を取り、情報交換を行っている。東部地区グループホーム連絡会に参加した際にも、サービス等について相談に乗って貰ったりしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年、身体拘束に関する研修に参加し、事業所内研修を全職員に実施している。利用者が出て行こうとする時は、一緒に付き添うなど安全面に注意し自由な暮らしを支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会をもち事業所内研修も行っている。また、折に触れ普段何気ない言葉の中で「言葉の虐待」がないように、その都度話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年、高齢者の権利擁護の勉強会に参加し、事業所で伝達講習を行い、各ユニット間でも話し合う機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は、時間を取り丁寧に説明をしている。利用料金やリスク、重度化、ケアに対する方針や退居等詳しく説明し、同意を頂いている。契約の変更があった場合はその都度、説明、同意を頂いている。</p>		
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に苦情箱を設置し、手紙や面会時などに伝えている。面会時には不安や苦情など言い易い雰囲気づくりに心掛けている。</p>		
11	(7)	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月のミーティングや年4回の個別面談で意見を聞くようにしている。また、日頃からコミュニケーションを図るように心がけ、職員の意見を聞くようにしている。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者は時々現場を訪れ勤務状況などの把握に努めている。管理者は職員に個々に応じた目標を立ててもらい3カ月毎に1回面接を行っている。その際には、多方面に関しても相談に乗るように努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修情報を収集し、年2回の研修を全職員に実施している。それ以外にも職員の力量に合わせて研修を受講し、報告書をもとに事業所内で伝達してもらい、全職員で共有している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>東部地域グループホーム連絡会に参加し勉強会や相互訪問などの活動に取り組んでいる。得た成果は、サービスの向上に反映させるよう努めている。</p>		

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>面談時には必ず本人に会って身体状態や精神状態を把握するように努め、本人の話や聞きながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>相談時に家族が困っていることや、不安なこと、何を求めているのか話を聴き、受けとめる努力をしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>面談時に本人やご家族の思いを聴き、必要としているサービスを見極め、出来る限り対応するよう努めている。必要に応じて地域の包括支援センター等と連携を図っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、本人の思いやこだわり、不安、楽しみなどを理解するように努め、得意分野で力を発揮できる場面をセッティングし教えて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話などで、本人の日頃の状態をこまめに報告、相談させて頂いている。ご家族の負担にならないように配慮しながら、共に本人を支えていくようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔、勤めていた職場に出掛け、店主や店員と会話を楽しんだり、宗教の方の訪問、勤務時代の同僚、部下などの訪問があったり、手紙などで連絡を取り持ち、関係が途切れないよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を職員は共有し、個別に話を聞いたり、相談に乗ったりしている。みんな楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる場面づくりに努め、トラブルを未然に防ぐ為に、注意深く見守るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、これまでの支援の内容、注意が必要な点など情報提供している。面会に出掛け、必要に応じて相談や支援に努めるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、会話を通して本人の思いや要望を把握するよう努めている。また、家族からも話を聴き、生活歴や性格について確認し、本人の望む生活が実現できるように支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時や面談時等に、家族から生活歴や生活環境について確認し、本人からも話を聴くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを把握し、身体や精神の変化を見逃さないように日々心掛けています。気がついたことがあれば、その都度職員間で話し合うようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の暮らしの中で本人の思いや意見を聴き、家族に面会時や電話などで状態を報告し、思いや要望などを聴くようにしている。アセスメントを含め、職員全員で意見交換しカンファレンスを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事や排泄、入浴、介護計画の実践状況など、利用者の日々の暮らし方、身体的状況や変化について、個々に記録し、勤務前に確認や申し送りを徹底し、職員全員で情報を共有しながら、実践や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応するように買い物や外出、宅老所など柔軟な支援やサービスに取り込んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域包括支援センターの担当者が参加しており、連携を図っている。地区の宅老所や日本舞踊の見学にも出掛けしている。年2回、消防訓練を実施し、何かあれば対応できる体制ができている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の納得を得られたかかりつけ医に受診して頂いている。受診先医には連絡ノートで情報の提供を行い、適切な医療を受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>常勤の看護師が健康管理を行っている。日常の関わりの中で身体状態の変化等、見逃さないよう早期発見に取り組んでいる。必要時は看護師に申し送り、適切な対応が出来るように支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、経過についても病院関係者、家族と回復状況について情報交換を行っている。</p>		
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>グループホームだけで対応するのではなく、医師も含めた人的資源を最大限に利用し利用者や家族の要望を聞くようにしている。ターミナルケアについての勉強会に参加し伝達講習なども行っている。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>全ての職員が年1回の救急救命法を受講するようにしている。非常時にどう対応するか職員間で話し合いを持ち、事故発生時にスムーズに行動出来るように備えている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行い、毎月各階別に避難訓練を行っている。地域町内会長が運営推進会議の構成員であり、協力を得られるように相談している。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報への漏洩防止については、施設内研修会を行い周知徹底を図っている。写真などの外部公表について家族の承諾をもらい、職員間で共有している。また、日頃の言葉掛けで利用者の誇りやプライバシーを損ねることがないように取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状態に合わせて、言葉がけし自己決定が図れるように支援している。日々の関わりの中で利用者の表情や嗜好を見極めるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは持っているが、一人ひとりのペースや体調に配慮し、したい事が出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせた支援をし、行事や外出時はお化粧品や季節に合ったおしゃれができるように心掛けている。カラーやパーマなどは行きつけの店や子供さんが経営している店に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや片づけを職員と一緒にしている。同じ食事を一緒に食べている。自分達で作ったラッキョウ漬けを添えたりしている。		
41		○ 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの1日の食事、水分摂取量を記載し、利用者の状態や習慣に応じて嗜好品や食べやすいようにセッティングしている。体重の増減に注意し補食を準備したり、栄養士に相談している。		
42		○ 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの言葉がけを個別に行っている。状況に応じて義歯洗浄や歯間ブラシを使い介助している。定期的に歯科受診し歯石の除去を行っている。		
43	(16)	○ 排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用して本人の排泄パターンを把握し、定期的に誘導している。状況に応じて紙パンツやパットも使用している。		
44		○ 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材を使用したり、朝食時には牛乳やヨーグルトを提供している。1日2回の体操と水分補給を徹底している。状況に応じて起床時に冷たい牛乳や食物繊維の入ったジュースなどで対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の体調や思いを考慮しながら入浴支援をしている。好みのお湯の温度に調節し十分に洗えない方には介助を行っている。入浴を拒む方には、言葉かけや対応を工夫し無理せず入浴が楽しめるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や生活習慣、日中の活動量に配慮し休息したり、夜間は安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関と連絡ノートで受診時の様子や薬の変更など情報交換している。薬の変更時は職員に申し送り、熱計表やフロア日誌に記載し確認出来るようにしている。処方薬変更時には、服薬後の状態変化にも留意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りや後片づけ、梅干しやラッキョウ漬けなど、利用者の経験や知恵を發揮できるような場面作りを行っている。個々に合った楽しみ(塗り絵・習字)など気分転換の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調面や天候に配慮し、散歩や外出の支援に努めている。本人の希望を把握し、喫茶店でのモーニングやカラオケ、デパートに買い物に出掛けている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談しながら、一人ひとりの希望や力に応じた金額を所持している。家族からお金を預かり事業所が管理している方でも、買い物の際は自分で支払いが出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自ら家族に電話したり、家族から掛けて頂いたりしている。手紙を書ける方は書いて頂き、書く事ができない方には言葉掛け、見守りし必要に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節の花を飾ったり、くつろぎやすい家具の配置など、入居者個々の感覚や価値観を大切に、居心地よく過ごせるよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>フロアに椅子やソファを置き、一人で過ごせる空間や他の利用者と一緒に過ごせる居心地の良い空間づくりをしている。</p>		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、本人やご家族と相談しながら、以前から使用していた馴染みの家具や置物、本などを持ち込み、居心地よく過ごせる雰囲気づくりに心がけている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>利用者の身体状態に合わせ、手すりの増設や、居室前に目印を付けたりしている。状況の変化があれば、その都度職員で話し合い、本人の不安や混乱材料を取り除いていくようにしている。</p>		

V アウトカム項目		ユニット名：	3 F
項 目		該当するものに○印	取り組みの成果
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		該当するものに○印	取り組みの成果
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない